

■第3回 専門部会の記録

日 時：令和3年7月5日（月）19時～20時30分

場 所：オンライン会議

出席者：榎井部会長、高谷副部会長、神野委員、森委員、イラ委員、ジャ委員、金委員、
和田委員、船越委員、花山委員、多田委員、金子委員、吉川アドバイザー、比嘉アド
バイザー

事務局：豊中市人権政策課 堀山人権政策課参事兼課長、片岡課長補佐、野邊
（公財）とよなか国際交流協会 山野上事務局長、山本事務局次長、山根事業主任

オブザーバー：（株）シティコード研究所

次 第：1 議題

- （1）ヒアリング調査について
- （2）アンケート調査について（報告）
- （3）その他

会議の経過

○開会

○配布資料の確認

【部会長】

- ・では次第に沿って進めて行きたい。ヒアリング調査について事務局より説明を。

○事務局よりヒアリング調査について資料説明

【部会長】

- ・説明のあった内容に質問や意見等はあるだろうか。

【委員】

- ・録音について、承諾を得て録音することになると思うが、慣れていないので失敗することもある。できるだけ録音するが、もしもの時は録音しなくてもいいのか。

【事務局】

- ・録音については撮れる人のみ録音していただければと思う。もちろん本人から承諾が出ない場合もあると思うので、その分、メモを一生懸命取らなければ詳細が後で分からないということもあるが、録音は出来る範囲で構わない。

【委員】

- ・テストしてみてどの程度時間がかかるか、どういう質問があった方がいいかなど実際に聞き取って見て検討するのもいいのではないか。実際、どれくらいの時間がかかるイメージなのか。

【事務局】

- ・イメージとしては1時間ほどと思っている。ただ悩ましい点で、インタビューに慣れている人ならいいが、初めての人などは聞き取りの膨らませ方や時間の調整ができないかもしれないため、必須項目だけで1時間になるか、逆に人によっては時間が足りなくなる可能性など調整が悩ましい部分だ。

【アドバイザー】

- ・質問の趣旨から離れない範囲で設問を追加することは可能なのか。

【事務局】

- ・可能だ。
- ・今回のヒアリング調査の難しさであり面白味でもあると思うが、ある程度自由裁量を残しながら聞くべき部分を統一することだと思う。大きく話が逸れなければ、インタビュアーの効きたいことやその人の視点でいろいろ聞いていただければと思う。ただ、不慣れな人がそれをやってしまうと脱線しすぎるため、元々の質問シートのなかでそのあたりをある程度調整しつつ、自由にやれる幅をどれだけ広げられるかだと思っている。

【委員】

- ・ヒアリング調査としてわれわれもインタビュアーとなって行うとのことだが、私もこれまで経験がなく不慣れで、実施までにレクチャーがあるのか。誰か補助につくなど、できれば1度でも見本を見ることができれば安心なのだが。

【事務局】

- ・もしインタビューを受ける人が嫌でなければ同席してもらい、インタビューの進め方を見ていただくのが理想だと思う。インタビューを組んで、相手からも了承が出れば可能だと思う。

【委員】

- ・録音機は自前なのか、国際交流センターで貸してくれるのか。

【事務局】

- ・国際交流センターで用意するつもりだ。
- ・スマホでの録音でも問題ないと思う。ただ、研究倫理の面から、インタビュー内容は個人情報なので国際交流センターで用意する機材がベストだ。個人のスマートフォンで録音する場合は、どの程度の期間保存しておくかの点など、おそらくICレコーダーよりも短い期間となると思うので、なるべくすぐに文字起こしてもらいデータを消去してもらうなどしなければ、個人のスマートフォンに他人のプライベートな情報が残ってってしまうこととなるため扱いには注意する必要がある。

【部会長】

- ・インタビューをするのはこの部会員や事務局スタッフということになっているが、やはりすごく温度差があるので、一度オリエンテーションを行い、確認を取る必要があるのではないか。今出た個人情報のことなども、まず一回参加する人で集まって確認する機会を設けた方がいいのではないか。

【事務局】

- ・必要だと思う。

【委員】

- ・質問を膨らませてもいいということだが、たとえばQ10など転職した人について、コロナの流行が原因ですかとあるが、実際は日本人とは賃金差があったりボーナスが日本人だけだったりといった理由が出てきても構わないのか。

【事務局】

- ・構わない。
- ・今回、コロナがどんな影響を与えたかを調べるのが主な目的だが、それ以外での困り事や背景もあると思うので、それらも同時に知ればとも思う。コロナについては何もないというので次の質問へということではなく、そのまま背景を聞き取っていただきまとめてもらいたい。

【委員】

- ・インタビューは基本的に1人で行うことを想定しているのか。

【事務局】

- ・言語的に通訳が必要な場合もあると思うので、その場合は通訳も同行する。
- ・基本的にはなるべく少ない人数で行うのが大切だと思う。知り合いではなく初対面の人と話をするケースもあると思うし、逆に知り合いだと余計にプライベートな話を聞かれないという人もいると思う。インタビューを受ける相手との信頼関係を築くことが重要なので、そのためには大人数でどっと押しかけるのではなく少人数の方がより良いインタビューができるし、相手も安心して話をすることができるだろう。
- ・基本的には1対1か通訳を入れて1対2とし、ひとりでは不安だという場合は相手の了承を得て複数人で行く形になる。

【委員】

- ・ではこれまで会ったことない知らない人に1人でインタビューする形になるか。

【事務局】

- ・そうなる。知っている人でも複数人はちょっとというのであればなるべく少ない人数で行うので、相手次第となる。
- ・また、アンケート調査で答えてくれると回答した人については性別年齢などマッチングし、どんな人なら詳しく聞けそうか、対応がしやすそうかなど工夫が必要な部分も出てくると思うので、相手をみながら組んでいけるよう工夫したい。

【部会長】

- ・マッチングは結構大変な作業だと思うが、それを事務局で行うということか。

【事務局】

- ・事務局と部会長、副部会長にも相談しながら進めたい。

【副部会長】

- ・記録について、録音する場合はそれを利用できると思うが、記録の作成はインタビュアーが行うのか。
- ・また、録音できなかった場合、かなり慣れていなければ話を聞きながら記録するのは難しい。事前に録音の許諾を得る際に、併せて記録する人の同行なども確認する必要があるのではないか。

- ・録音データの保存について、記録を起こした後のデータの保管方法なども統一的に決めておいた方がいいのではないかと。

【事務局】

- ・記録については、インタビュー後にどの程度細かく起こすか、最終的にどのような形で報告をまとめるかなどにも絡んでくる部分だと思うが、そこまで詰めて考え切れていなかったため、この場でこんな風にすればその後の作業がしやすいとかインタビュアーの負担軽減などもふまえてアイデアや意見があればいただきたい。

【副部長】

- ・インタビュー調査の位置づけにも関わってくるが、アンケートをしてそのデータをまとめた際にインタビュー調査をどういう位置づけにするのか、補足的なものとするなら必要な部分だけ記録するというのも手だが、これはこれでしっかりした報告をまとめるのであればある程度詳しくする必要がある。また、最後のまとめ方のイメージなどもあるのであればうかがいたい。

【事務局】

- ・最後のイメージもまだ調査結果が出ている訳ではないのでしっかりとしたものがないが、アンケート内容と合わせて地区ごとを掘り下げる内容にしている狙いとしては、アンケートから数字は出てくるがその数字がどんなことを意味しているのか、具体的にどんなことが起きているのかなどはやはり数字だけでは分からないので、数字である程度客観的な傾向や割合を見せつつ、実際にどんなことが豊中で起きているのかを補いあえればというのがひとつの考えだ。
- ・また、テーマごとにどうまとめるかということと、メディアなどでもよく取り上げられるような技能実習生はこんな状況だといったストーリーの形でまとめる必要もあると思っている。インタビューの使い方としてはこうした2通りあるのではないかと現時点では思っている。

【委員】

- ・ヒアリング対象は必ずアンケートを送った人になるのか。

【事務局】

- ・送っていない人もふくまれる。特別永住や永住者などはアンケートを送付していない人になる。

【部長】

- ・これまでの話を総合して考えると、できればインタビューは録音することを前提でお願いすることが、インタビュアーにとっても負担がなく、その後の利用についても幅広く行えるように、できればインタビューは録音し、保存についても統一して考える必要があると思うがどうか。

【事務局】

- ・指摘の通りだと思う。
- ・オリエンテーションの提案もあったように、イメージがどれほど共有されているかという部分もあると思う。先行して実施してみてどれくらい時間がかかるのかの確認や、このシートを使って実際に行ってみてから経験をふまえてオリエンテーションを行えばいい

と感じた。

- ・具体的なスケジュールの段取り等はできていないが、ステップとしてはそうしたものがあつた方がいいだろう。

【部会長】

- ・まだ段取りまで時間的余裕が少しあるようなので、みなさんも引き続きヒアリング調査について意見やアイデアがあれば事務局までよろしくお願ひしたい。
- ・では本日はもうひとつ議案があるのでそちらに移りたい。

○事務局よりアンケート調査について（報告）資料説明

【部会長】

- ・みなさんから沢山いただいた意見を整理したデモを紹介していただいた。事務局には予定通り進めていただきたいと思う。
- ・本日は報告ということになっているが、まだ少し時間があるのでもし感想等があればうかがいたい。
- ・個人的には、紙とオンラインで重複回答はどう防ぐのかうかがいたい。

【事務局】

- ・事務局内でも検討しているが、オンラインのシステムでは同じデバイスから複数回答した場合は跳ねる機能があるが、別の端末から回答を再度した場合は重複してしまうことになる。また、オンラインでも紙でも回答するようなレアケースの場合は事実上排除できないが、回答傾向は概ね同じになると思われるので、オンラインと紙で照合した際に著しく一致する回答があつた場合にどうするかその都度事務局内で検討し重複排除できればと考えている。

【副部会長】

- ・重複についてだが、個別の番号などを事前に入れておくのは無理なのか。

【事務局】

- ・それも事務局内でも検討したが、アンケートの場合、個別の番号等を入れると個人を特定されるのではないかと思われ回答を躊躇う人も出てくるため、調査票や入力フォーム内に個人を特定できる番号等は付けない方向で進めている。

【副部会長】

- ・回答方法が3つあるが、どれかひとつをひとり1回だけ回答してくださいという説明を入れた方がいいのではないか。どれもやらなければいけないと誤解を避けた方がいい。

【事務局】

- ・文言を追加したい。

【アドバイザー】

- ・デモを見たところ、公的支援や豊中市役所、国際交流センターへの希望についての部分で、説明文を下にずらつと並べるとのことでそれは一定仕方ないと思うが、※ごとに番号を振つてどの説明が該当するのか分かるように分かりやすくできないか。

【事務局】

- ・ PCの画面では表組で下に説明が並ぶ形だが、スマートフォンの画面では選択肢ごとの表示なので、選択肢ごとに説明を分割して挿し込む形に作り替える予定だ。

【アドバイザー】

- ・ 「知っているけど使わなかった」と「知っているけど必要なかった」の選択肢があるが、使わなかったのは必要がなかったからと受け取れてしまうのではないか。

【事務局】

- ・ 調整したい。

【委員】

- ・ 質問の内容によって付問へのつながりが紙資料では記載されているが、デモではこれらがすべて飛んでいるが修正済みなのか。

【事務局】

- ・ システム上の話で、紙資料で青字になっているつながり文は表示されない。該当する選択肢を選んだ場合だけ次の付問が表示される仕組みだ。

【委員】

- ・ Q31、つながりの文章が「スマートフォン、パソコン（コンピューター）、タブレットは持っていないを選択しなかった」とあるが、要するに肯定なので「持っている人」とした方がいいのではないか。

【事務局】

- ・ ここに関しても同様で、スマートフォン、パソコン、タブレットについてひとつ以上チェックを入れた人にものみQ32が表示され、選択が無かった人はそのままQ33に飛ぶ形となる。

【アドバイザー】

- ・ デモを行ったが、設定ミスかと思うがQ26で正社員、派遣、パートタイムなどを選択してもQ30へ飛べるようになっていたので確認を。

【事務局】

- ・ 確認し修正したい。

【部会長】

- ・ 他に意見がなければその他案件に移りたい。

○事務局よりその他スケジュール等について案内

【部会長】

- ・ 次回部会は10月とのことだが、それまでに個別に委員には連絡があるかもしれないのでよろしく願いしたい。
- ・ では本日は以上としたい。

(以上)